

# 3M™ アテスト™ オートリーダー 490\*

## 培養手順

### BIの培養手順



#### 高压蒸気滅菌用

- ・滅菌器から取り出したあと、**10分程度**室温で冷ましてください。
- ・キャップのCIの変色を確認ください。
- ・滅菌終了後**5日以内に**培養を開始してください。



\*ソフトウェア v4.2.7以上の3M™ アテスト™ オートリーダー 490H



#### 過酸化水素ガス滅菌用



- ・キャップのCIの変色を確認ください。
- ・滅菌終了後**1時間以内に**培養を開始してください。



### 1 クラッシュ



ハンドクラッシャーにBIを設置し、最後までしっかりと握りこみ、ガラスアンプルをクラッシュしてください。

### 2 振る



BIを一度取り出して、ラベル部分でBIを持ち数回振ってください。

### 3 目視確認



紫色の培養液がバイアルの底まで達していることを目視確認してください。

### 4 培養開始



BIを培養ウェルに差し込んでください。  
「\*\*\*」→「\*\*」→「\*」と表示された後、結果判定までの残り時間（分）が表示されていることを確認してください。

### 5 判定



ディスプレイに判定結果  
(陽性：「+」、陰性：「-」)が表示されるまで、BIを取り出さずに培養を続けてください。

### 6 記録



BIの判定結果を記録してください。

BIの陽性判定が示された場合に、同じBIを別のウェルに差し替えて再度培養を行うことは、オートリーダーの判定原理上できません。



## トラブルシューティング

LCDディスプレイパネルは、バックライトが点滅し、警報音が鳴り（警報が有効になっている場合）、該当する培養ウェルの下にコーション[C]またはエラーコード[E]を表示します。  
警報音とバックライト点滅は、ブザーラームオフ（Buzzer Alarm Off）ボタンを押すことで、消すことができます。  
警報音を無効にしてもLCDディスプレイのバックライト点滅が無効になることはありません。

### コーションコード一覧

<b>C1</b>	装置ウォームアップコーション 電源を入れた後、培養ブロックが設定温度に達するまで表示されます。	オートリーダーの電源プラグを入れた後、30分間のウォームアップ時間を取りてください。 (注：BIの判定は、培養ブロックが $60^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ になるまで無効です。)
<b>C2</b>	BIが培養ウェルから取り出されたコーション BIが、培養完了する前に取り出された場合に表示されます。	BIを適切な培養ウェルに10秒以内に戻して、収集データを喪失しないようにしてください。コーションの表示から時間が経過してしまったBIは正確な結果を得られません。pH指示薬の変色で判定をしてください。
<b>C4</b>	環境光コーション	オートリーダーの電源プラグを一旦切って入れ直してください。 太陽光や室内の蛍光灯などを軽減できる場所にオートリーダーを移動させ、コーションがクリアされたことを確認してください。※

### エラーコード一覧

<b>E1</b>	温度コントロールエラー システムがインキュベーターブロックの温度を管理できなくなった場合に表示されます。	オートリーダーの電源プラグを一旦切って入れ直し、エラーをクリアしてください。	エラーがクリアされたことを確認後※ 培養ブロックが設定温度 ( $60^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ ) になるまでウォームアップ時間を取ってください。
<b>E3</b>	メモリーエラー 本体メモリーにデータを保存／読みだしができなくなっている可能性があります。		エラーがクリアされたことを確認後※ 使用してください。
<b>E7</b>	コミュニケーションエラー	オートリーダーの電源プラグを一旦切って入れ直し、エラーをクリアしてください。	エラーがクリアされたことを確認後※ 使用してください。
<b>E8</b>	LEDエラー 特定の培養ウェルで、システムがUVLEDまたは光検知サークットが作動していないことを検知した場合に表示されます。		エラーがクリアされたことを確認後※ 使用してください。 エラーの発生したBIは正確な結果を得られません。pH指示薬の変色で判定をしてください。
<b>E11</b>	BIの不適切な挿入エラー アンプルのクラッシュが適切に行われていない場合などに表示されます。	オートリーダーを、太陽光や室内の蛍光灯などを軽減できる場所に移動させ、エラーがクリアされたことを確認してください。※ エラーの発生したBIは正確な結果を得られません。pH指示薬の変色で判定をしてください。	アンプルのクラッシュが適切に行われているか確認してください。エラーがクリアされたことを確認後※、必要に応じて“手順2. クラッシュ”からやり直してください。
<b>E12</b>	電源制御エラー 培養中のオートリーダーへの電源供給に問題があった場合などに表示されます。		オートリーダーへの電源接続を確認してください。※ エラーの発生したBIは正確な結果を得られません。pH指示薬の変色で判定をしてください。
<b>E14</b>	環境光エラー（使用中の培養ウェル）		オートリーダーを、太陽光や室内の蛍光灯などを軽減できる場所に移動させ、エラーがクリアされたことを確認してください。※ エラーの発生したBIは正確な結果を得られません。pH指示薬の変色で判定をしてください。

※ 電源プラグを入れ直した後もコーションコード、エラーコードが再表示される場合は、下記カスタマーコールセンターに修理または交換を依頼してください。

#### 定期点検のご案内

オートリーダーの機能維持のため、  
年1回の定期点検を推奨しております。

点検内容：温度制御および光学判定機能の確認と較正

料 金：25,000円

部品交換を伴う修理が必要な場合は、別途部品代が必要になります。

ご購入後の1年点検は無償で実施いたします。

